

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol. 32

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

大槌小学校で学習支援活動を行っています

三陸復興推進機構教育支援部門学習支援班が平成25年11月から実施している大槌町立大槌小学校での学習支援活動は、これまで計20回、参加人数は延べ135名に至っています(平成26年6月末)。教室での学習支援をメインとして開始した活動は、現在、保健事務や環境整備、校外学習の引率等にまで広がっています。

大槌小学校は、被災した大槌小、大槌北小、赤浜小、安渡小の子どもたちが同じ仮設校舎で半年程一緒に過ごした後、平成25年4月に統合されて出来た新しい学校です。しかし、震災後、環境の変化や慣れない仮設校舎の影響もあり、学校全体が落ち着きのない雰囲気になっていました。そこで、いわて高等教育コンソーシアムの中で教員養成の課程を持つ盛岡大学と岩手大学が連携して開始したのが大槌小学校での学習支援活動です。支援に参加する学生たちのほとんどは将来教師になることを目指しており、子どもたちの内面に潜む悩みや悲しみに戸惑うこともあります。子どもたちの元気な姿や笑顔に励まされながら活動に取り組んでいます。

また、定期的かつ長期的な支援活動は、学生たちにとって日々成長する子どもたちに直に接する貴重な機会となり、教職についての理

解と自覚を深める契機にもなっています。このように本活動は、子どもたちへの支援を目的としていますが、学生たちの学びの場にもなっているため、今後も継続して活動を行ってまいります。



大槌小学校での活動の様子

「『犬との暮らし方』しつけ教室」を開催しました

7月12日、三陸復興推進機構生活支援部門被災動物支援班は、大船渡市にて「『犬との暮らし方』しつけ教室」を行いました。

「『犬との暮らし方』しつけ教室」は、初級から上級へと各回レベルアップしながら人と犬の信頼関係を築き、社会化していくことを目的として開催しています。地元保健所の協力のもとで開催し、この手法を地元保健所に引き継ぐことにより、住民が保健所にしつけ方法などを気軽に相談できる社会的環境づくりも兼ねています。2回目となる今回は、オスワリ、マテ、フセなどの基本指示を体得している犬とその飼い主を対象に、吉田ドッグスクール訓練士の吉田美樹子さんと、ジャパンケネルクラブ、日本警察犬協会公認訓練士の梶山永江さんを講師に迎え、人混みの中や慣れない環境下での指示、呼び戻しの方法など、中級レベルのトレーニングを行いました。犬の「しつけ」は、犬と人の信頼関係が重要で、関係が良好でないとうまくいかないものです。トレーニングでは、犬と飼い主が信頼関係の絆を強くするための方法を学び、能力に応じてグループを分け、さらにステップアップしていきました。参加者からの個々の質問に丁寧に応じながら、犬と共生する上での疑問点や不安を解決することができました。また、参加者は講習の最後に学習体得の確認として、犬とのゲームを楽しんでいました。

沿岸被災地の現状では、仮設住宅や災害公営住宅などの密集した住宅地で犬の鳴き声などの苦情があり、人と人の社会関係にも摩擦が生じる問題が起こっています。そのためにも、動物とのより良い社会生活の安定を保つ「しつけ」の必要性が重視されており、また、「しつけ」は災害時に同行避難をする際にも大変重要です。

被災地の家庭動物と暮らしている方々からは、「被災時に犬に助け

られた、仮設住宅で動物が話し相手になってくれている」、「仮設団地では動物を通して知り合いが増えた」、「犬との散歩はいい運動になるし“犬友”と話すのも楽しみ」、「震災以前からともに暮らしている猫は大切な家族」等の声が聞かれ、動物は身体的、精神的にもかけがえない存在であることがわかります。

被災動物支援班では、引き続き沿岸市町村との協力で「『犬との暮らし方』しつけ教室」や「ワンにゃん号」による診療を行い、人と動物が社会の中でよりよい関係で暮らしていけるよう、活動を展開してまいります。



大船渡市「『犬との暮らし方』しつけ教室」の様子

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、今年4月にものづくり産業復興推進部門インキュベーション支援班から改編されたビジネス支援班の活動の一例をご紹介します。

ものづくり産業復興推進部門ビジネス支援班が活動を開始しました

岩手大学三陸復興推進機構 ものづくり産業復興推進部門 ビジネス支援班
柴田 亮（三陸復興推進機構 特任准教授）

ものづくり産業復興推進部門は被災した釜石・大槌地域産業育成センター内に、高度な工作機械や3DCAD/CAMのシステムと技術支援担当のスタッフを配置し、地元企業への技術指導などを展開してきました。

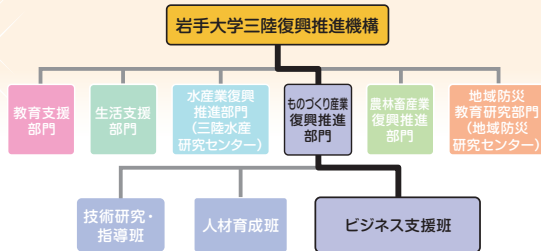
釜石市では、震災以前から産官学でいって発コバルト合金の開発に取り組んでいました。コバルト合金は医療用の生体金属材料として開発されたものですが、耐熱性、耐摩耗性、耐腐食性があり産業用途も期待できます。また、これらの金属の生産を基盤として、加工まで含めた産業集積を目指しています。今年4月から新たに活動を開始したビジネス支援班はこうした三陸のものづくり産業が、将来的にビジネスとして展開できる用途やテーマを発掘してまいります。

もちろん、特殊合金は一つのテーマであって、それ以外のテーマにも幅広く取り組んでいくつもりです。

特殊合金については、県や産業支援



現地のものづくり企業と水産の現場に、ものづくりの種を探しに行きました



機関によって医療用途の開発が進行中でしたので、それ以外の水産加工や海洋資源開発分野で調査を始めました。実際に水産加工機械メーカーを訪れてディスカッションを行っています。

また、特殊合金以外のテーマでは、新製品開発の支援を進めています。震災後に下請けだけではなく自社製品の開発に意欲を持った企業様が増えていて、そうした企業が勉強会等を実施しています。いくつかの地域でこうした勉強会の支援をしていく予定です。

目指すところは、産業が自発的に変化に適応して進化ができるようなエコシステム作りです。コミュニケーションや資金調達の在り方が大きく変わる中で、世界的なものづくりの在り方も変わりつつあります。このような変化の中で三陸らしいものづくりのあり方を探求します。三陸のものづくりの強みは目の前に農林水産業の現場があることです。人手不足の中で自動化・機械化・産業化が求められている分野で、新たなものづくりのチャンスがあると考えています。



ビジネスの連携を探るため、首都圏のものづくり企業にも訪問しています

宮古エクステンションセンターだより

日中はまだまだ汗ばむ暑さの日も多いですが、夜の涼しさは三陸沿岸ならではです。遊びに来るときはぜひ宿泊し、涼しい夜と海の幸を楽しんでください。

それでは宮古の近況をご報告します。

●IPMEN 2014 JAPAN (International Pacific Marine Network Conference in Japan) 第5回国際環太平洋海洋教育者ネットワーク会議 ~環太平洋海辺の集いin浄土ヶ浜~ 7月に開催されたIPMEN JAPANのイベントの一つ、「環太平洋海辺の集いin浄土ヶ浜」が宮古市浄土ヶ浜において開催されました。世界各国から集まった海洋研究・教育者と地域の皆様が多様な形で交流しました。

午前中は、浄土ヶ浜にある岩手県水産科学館「ウォリヤス」を会場に、水産科学館の概要や、三陸ジオパークみちのく潮風トレイル、津波被災、宮古地域で発掘された様々な古代漁具等、宮古の自然と災害、歴史文化について、英語を折り混ぜながら各国の研究者に紹介と意見交換が行われました。

午後は、市内の小学生と一緒に浄土ヶ浜で釣りやカヤックなどのアクティビティを楽しみ、夕方からは、浄土ヶ浜レストハウスでバーベキューをしながら懇親会が行われました。懇親会会場では、重要無形民俗文化財でもある黒森神楽が演じられ、海外からの皆さんは日本の神事を神秘的な眼差しで見っていました。

様々な参加者とお話する中で、産業、観光、市民生活と環境保全の両立は、生活するすべての人たちの課題でもあり、大きな責務でもあることを改めて認識したイベントでした。



水産科学館の説明をする伊藤隆司館長と通訳をする東京海洋大 佐々木剛准教授

●みなとオアシス Sea 級グルメ

みなとオアシスをご存知でしょうか？ みなとオアシスとは、国土交通省が認定する、港を中心とした人々の賑わいや交流を作り出す施設のことです。この制度は平成15年からスタートし、平成26年6月現在、登録港76港、仮登録港8港となっています。岩手県内では、宮古港と久慈港が認定を受けています。

宮古港の「シートピアなあと」は、平成17年に、「みなとオアシス」と「道の駅」にダブル認定されました。その後、東日本大震災津波で被災しましたが昨年の7月に復旧再開をしています。

みなとオアシスの地元で獲れる海産物や周辺地域の地場産品を使った飲食物で競い合う大会が、みなとオアシスSea級グルメ全国大会です。

来年は、宮古港が南部藩の藩港として開港してから400周年を迎える年で、各種イベントが計画されており、Sea級グルメ全国大会の誘致にも取り組んできました。その甲斐あって、来年の「第6回 みなとオアシスSea級グルメ全国大会」が宮古市で開催される運びとなりました。

全国の強豪を相手に宮古の代表がどこまで戦えるか楽しみです。開催は来年9月を予定しており、宮古市の「みなとオアシスみやこ シートピアなあと」で行われます。



7月に広島県尾道市で開催された第5回 Sea 級グルメ全国大会の様子

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 宮古エクステンションセンター

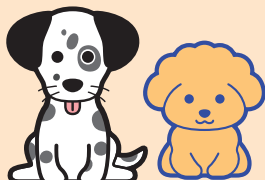
〒027-8501 岩手県宮古市新川町2-1
宮古市役所宮古市産業振興部 宮古市産業支援センター内
TEL : 090-2886-8887 E-mail : miyako@iwate-u.ac.jp

Information

岩手大学動物セミナー 『犬との暮らし方』しつけ教室

岩手大学三陸復興推進機構生活支援部門被災動物支援班は、ドッグトレーナーによるしつけ方トレーニング講習を開催します。

お問い合わせ 三陸復興推進課 浜田・岩瀧
電話：019-621-6629
メール：sanriku@iwate-u.ac.jp



- 9/6 (土) 時間：10:00~12:00
場所：小佐野コミュニティ会館(釜石市小佐野町3-4-25)
募集人員：20組
- 10/25 (土) 時間：10:00~12:00
場所：岩手大学釜石サテライト(釜石市平田3-75-1)
募集人員：20組
- 11/15 (土) 時間：10:00~12:00
場所：釜石シープラザ遊(釜石市鈴子町22-1)
募集人員：20組